島根県

松江市

夢を実現できるまち
誇れるまち
松江

人口 203,616人　面積 572.99 km²

都市の特長

松江藩の城下町を中心に発展してきた、山陰最大の人口を擁する都市。
東に中海、西に宍道湖、北に日本海があり、市内を堀川や大橋川が流れる。
豊かな水辺の景観に恵まれ「水の都」と形容されている。

松江市
MATSUE CITY

水環境との共存ライフスタイルの創出【中海（なかうみ）】

中海（上記写真）は、市の東側に位置する汽水湖である。今まで中海エリアは、地域活性化に向け様々な振興策が検討・実施されたが、従事者の高齢化による水産業の低迷やコロナ禍による観光振興策への影響等から、改めて振興策を見直す必要性に迫られている。そこで、中海スポーツパーク整備と利活用ルール作成により、中海エリアの活性化を図る。

01 中海スポーツパーク（仮称）整備事業

中海に災害時の防災拠点となる人工芝の多目的施設等の新設および隣接する既存施設の改修等によるウォーターアクティビティを中心としたスポーツ施設を整備し、親水性ある賑わい創出の拠点とする。
2022年度に、中海エリアに関する振興ビジョンの策定や市民アンケート及び企業等へのヒアリングを行うなど、エリア全体としての望ましい将来像の検討を深めた。これを基に、関連団体の協力によるウォーターアクティビティ実証実験（カヌー、ヨット、SUP ）、島根大学（総合理工学部建築デザイン学科）の授業協力によるエリア整備にかかる基本構想の策定を行う 。

完成イメージ！
水陸両方のアクティビティができます

02 水の都のトリセツづくり【中海編】

水の都のトリセツづくりは、【新庁舎編】、【宍道湖・大橋川編】、【中海編】、【日本海編】のように4か所で実施されている。【中海編】では、中海スポーツパーク（仮称）完成後の利活用を見据え、中海の自然環境の保全と社会・経済活動との両立を図るための水面活用などに関する簡易なルール作りを行う。当該施設をエリア活性化の重要拠点と位置づけ、漁業者や地域住民、子育て世代などの多様なステークホルダーとともに 、中海地域の振興という市民共通の目的のもとで利活用ルール作りを行う。

自然と共生しながらアクティビティを楽しむ

アクティビティ例（イメージ）

各取組の詳細はこちら

松江市の SDGs に関する取組

松江市 中海振興ビジョン

インタビュー

Interview

01 「水の都 松江」の豊かさ創出のために

松江市 政策部 SDGs推進課
課長　岡田 等 さん

中海は、島根・鳥取の県境を跨ぎ松江市街からも近い貴重な自然の宝庫です。一方、「親しみがない」といわれることが多く、「水の都 松江」のシンボルの一つでありながら利活用の面では大きな課題を抱えています。中海スポーツパーク（仮称）整備をはじめ、日常生活や経済活動の中で松江の特徴である3つの水域（宍道湖・中海・日本海）と接する必然性を創出することで、多くの方に「水の都 松江」の豊かさを実感していただけることを期待しています。

堀川、宍道湖、
中海、日本海…
水との関わりが多い町

Column

中海は、宍道湖を合わせると国内最大の連結汽水湖で、「ラムサール条約登録湿地」や日本ジオパーク「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」にも認定され、豊かな自然と個性ある生態系を有している。

02 中海を活用し地域の元気を創る

道の駅本庄企業組合
専務理事　安部 寿鶴子 さん

道の駅本庄は、地域密着型の道の駅として様々なイベント等を企画し、地域の元気を創る地域センター型の道の駅として活動しています。また、日本海産のあわびと中海で獲れたサルボウガイを始めとした地元産品を新たな地域資源として活用し、地域が潤っていく「地域循環型システム」の構築に向けて取り組んでいます。
今後は、本庄地区に整備される中海スポーツパーク（仮称）と連携し、観光やスポーツ体験など、中海を活用した取組を進めていきます。

今後の展望

中海スポーツパーク（仮称）に関しては、2024年度は施設建設を行い、2025年度のオープンを目指している。水の都のトリセツづくりについては、2025年度の公開を目指して利活用のルール策定を進めていく。さらに、中海名産のサルボウガイの養殖支援を行い、漁業振興を推進していくとともに、同様の水辺の環境整備・ルール作り・漁業振興について日本海や宍道湖でも実施予定。

1 漁業・鳴り物の神様　美保神社
2 宍道湖の夕焼け
3 松江城のお堀をめぐる堀川遊覧船
4 現存12天守のひとつ　松江城
5 由志園の本格的な池泉回遊式庭園
6 松江水郷祭の花火